

## 2017年1月 竹パウダーニュース

### 「大阪、静岡の米コンテストで里山の夢5点が入賞！！」

里山の夢が「第6回大阪府民のいっちゃんうまい米コンテスト」で全国から応募のあった353点の中から上位24点に入賞3点、決勝に1点（1月22日に大阪市にて最終審査が行われ、優勝が決まります。）が残っています。

今回の入賞米の生産者は、山内町の世並吉彦さん、平和町の石田哲久さん、村田定敏さんの3名、決勝大会出場は本郷町の深屋進さんです。

本大会には第1回大会より参加し、第2回大会で総合最優秀賞を受賞し日本一になりました。以後5年連続上位入賞しており、このたび2回目の日本一を目指します。

また、「第13回お米日本一コンテスト in しずおか」に初挑戦し、里山の夢の代表米が決勝大会に進出、優勝は逃したものの入賞の栄誉に輝きました。

1月22日の大阪での決勝大会では日本一に輝く夢を描いています。ブランド米として生産技術がレベルアップした感があります。今後とも努力していきます。



## 2017年2月 竹パウダーニュース

「大阪いっちゃんうまい米コンクールで優良賞を受賞！！」

里山の夢が「第6回大阪府民のいっちゃんうまい米コンテスト」で全国から応募のあった353点の中から上位6点に選ばれました。その決勝大会が大阪市のハグミュージアム（大阪ガス展示場）にて1月22日に行われ、優勝は逃したものの本郷町の深屋進さんのお米が優良賞を受賞しました。

本大会には第1回大会より参加し、第2回大会で総合最優秀賞を受賞し日本一になりました。以後5年連続上位入賞しており、広島県庄原市の米が大阪で高く評価されるようになりました。



## 「里山の夢の生産者栽培研修会を開催！！」

2月9日にJA庄原西支店にて、春の作付けに向けてブランド米「里山の夢」の生産者栽培研修会を開催しました。

今回の研修では、JA全農ひろしま米穀販売部から「JGAP認証（安全で健康的な食品や農産物を生産するための、圃場や収穫後の工程管理）について説明を受けました。東京オリンピックで使用される食品はJGAP認証を受けたものしか使われないとのことで、里山の夢のお米も認証取得の必要性を感じています。

北部農業技術指導所からは「水田土壌における鉄のはたらき」、「山内地区の土壌に合わせた水稻栽培管理」について、土壌調査の結果に基づく地域ごとの施肥管理や出穂期の葉色と食味の関係について指標を示してもらいました。

29年産米は、JGAP認証の前段として、「特別栽培米（化学肥料・化学農薬の使用を慣行栽培の50%以下）」の認証取得を目指すことを提言し、全員一致で承諾されました。

28年産米は前年産に比べ、生産者全員の平均がタンパク含有率(6.9%→6.6%)、食味値(86点→90点)と数値がさらによくなりました。今後も品質の向上と安心・安全な米を目標に取り組んでいきます。



## 2017年3月 竹パウダーニュース

### 「第2回米・米品質食味研究会に参加！！」

3月10日～11日に愛知県豊川市にある（株）アイホー炊飯総合研究所で行われた「**第2回米・米品質食味研究会**」に参加しました。この研究所はお米・炊飯の権威である平田孝一先生が所長を務められており、2年前には山内自治振興区米づくり研究会が講師としてお呼びし、「竹堆肥栽培米の品質特性について」里山の夢のお米30検体の検査結果について講演を行っていただいたことがあります。

今回の研修は、米飯商品米としての最適性とは、米コンクール上位にランクされた米の品質の裏付け、審査内容についてあらゆる角度から分析・評価し、品種の特性、土作り、栽培方法等の情報を共有できる研究会となりました。

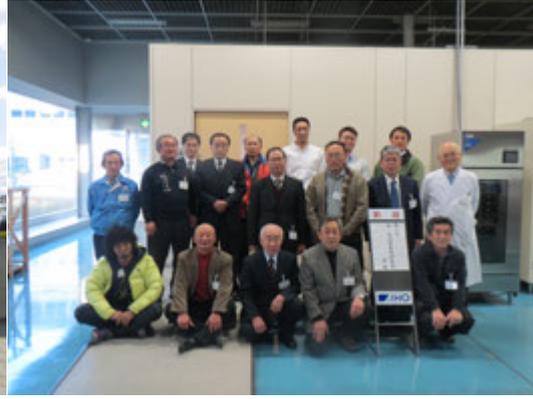
参加者は、東北から中国地方までの13県の米生産者、米穀店等関係者15名が参加（**写真**）しており、米の品質と栽培方法などについて講義と意見交換を行いました。里山の夢が取り組んでいる土作り・栽培方法についても紹介をさせてもらい、他県の良い面も今後取り入れていきたいと考えています。

研究会で知り合った人達とも親睦を深め、よりよい品質のブランド米づくりに向けて努力していきます。

（株）アイホー炊飯本社と工場（**写真**）の見学もさせてもらいました。業務用炊飯機器の製造・販売を行う全国有数のメーカーで、例えば回転ずしラインであれば、洗米から炊飯、合わせ酢、攪拌などの工程を機械がすべて行えるよう、オーダーメイドで設計・製造をしています。

すし米コンテストの検査機関でもあるため、あらゆる米の検査機器も見せてもらいました。こうして多くの品種・品質の米を検査・分析した結果を、炊飯機器の開発に生かしていることも多いに勉強になりました。

ちなみに、会社規模は年商170億円、従業員は全国の営業担当も合わせ、600名だそうです。すしラインや学校給食ライン、レトルト製造ラインなど機器の価格は何億円単位だそうです。すべてオーダーメイドで注文から機器の納品まで2年待ちだそうです。



## 2017年4月 竹パウダーニュース

「2年連続特Aランク取得に向け「竹堆肥」の散布！！」

山内自治振興区米づくり研究会では、4月10～18日の7日間で本年度作付けする「里山の夢」栽培圃場へ“竹堆肥”を散布しました。28年産米では鉄資材の投入効果もあり「広島県産（北部）あきさかり」が日本穀物検定協会の食味ランキングで最高の特A評価をもらうことができました。今年50haの作付けを行います。連続特A評価を目指して取り組みます。

さらに、これまで行ってきた減化学農薬・減化学肥料の取り組みを強化するため、ブランド米生産のすべての圃場で使用する農薬・肥料の統一化を行います。これにより、特別栽培米基準をクリアした米として、申請・生産・販売が可能となります。今後とも生産者一同、研鑽を重ねながら“安心・安全で美味しい米”を作り、ブランド化に向けてさらに努力していきます。

